

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-199964

(43)Date of publication of application : 21.07.1992

(51)Int.Cl.

H04N 1/00

(21)Application number : 02-331522

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 29.11.1990

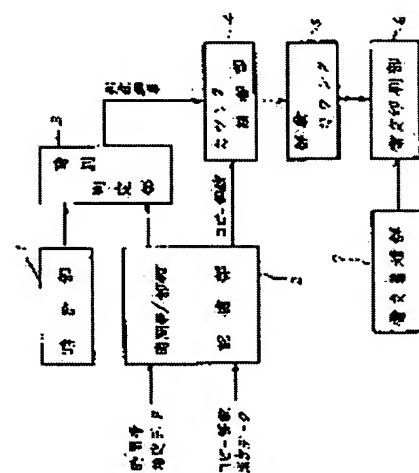
(72)Inventor : OSHIMA TSUTOMU

(54) AUTOMATIC COPY SYSTEM FOR FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To always and automatically obtain the necessary number of copies by means of designation only from a reception side by setting designation data on the number of copies in a number of copies counter in a designated time zone and copying/outputting only the designated number of copies on the reception telegram of the designated time zone.

CONSTITUTION: Designation data on the time zone in which the copy is set to be effective and designation data on the number of copies are stored in a time zone/number of copies storage part 2 and a time judgement part 3 judges whether present time is the designated time zone or not. The reception telegram is accumulated in a telegram accumulation part 7 and the number of copies counter 5 counts the number of copies at the time of outputting the reception telegram of the telegram accumulation part 7. Designation data on the number of copies is set in the number of copies counter 5 in the designated time zone and therefore the reception telegram of the designated time zone is copied and outputted for the designated number of copies. Thus, the necessary number of copies can always and automatically be taken by designation only from the reception-side.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-199964

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)7月21日

H 04 N 1/00

H

7170-5C

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全10頁)

⑮ 発明の名称 ファクシミリ装置の自動コピー方式

⑯ 特 願 平2-331522

⑰ 出 願 平2(1990)11月29日

⑱ 発 明 者 大 島 力 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

⑲ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

⑳ 復代理人 弁理士 今村 辰夫

明 細 書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置の自動コピー方式

2. 特許請求の範囲

(1) ファクシミリ装置に、

コピーを有効とする時間帯の指定データ、及び
コピー部数の指定データを格納する時間帯／部数
記憶部(2)と、現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かの判
定をする時刻判定部(3)と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部(7)と、

電文蓄積部(7)の受信電文を出力する際、コピー
部数を計数する部数カウンタ(5)とを設け、指定した時間帯には、コピー部数の指定データ
を、部数カウンタ(5)に設定することにより、指定した時間帯の受信電文を、指定した部数だ
けコピーして出力することを特徴としたファクシ
ミリ装置の自動コピー方式。

(2) ファクシミリ装置に、

送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部
数の指定データを格納する送信元／部数記憶部(8)
と、出力する電文の送信元データを、前記指定デー
タと比較し、一致した場合には、その送信元に対
応したコピー部数の指定データを取り出す送信元
比較部(9)と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部(7)と、

電文蓄積部(7)の受信電文出力時に、コピー部数
を計数する部数カウンタ(5)とを設け、電文蓄積部(7)の受信電文を出力する際、その送
信元が指定送信元であった場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを、
部数カウンタ(5)に設定することにより、指定した部数だけコピーして出力することを特
徴としたファクシミリ装置の自動コピー方式。

(3) ファクシミリ装置に、

送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部
数の指定データを格納する送信元／部数記憶部(8)

と、

出力する受信電文の送信元データを、前記指定データと比較し、一致した場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出す送信元比較部(9)と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部(7)と、

電文蓄積部(7)の受信電文出力時に、コピー部数を計数する部数カウンタ(5)と、

コピーを有効とする時間帯の指定データを格納する時間帯記憶部(10)と、

現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かを判定する時刻判定部(3)とを設け、

指定した時間帯の受信電文を出力する際、

出力する電文の送信元が、指定された送信元であった場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを、部数カウンタ(5)に設定することにより、

指定した部数だけコピーして出力することを特徴としたファクシミリ装置の自動コピー方式。

(4) ファクシミリ装置に、

ることにより、

時間帯によって指定したコピー部数、あるいは、送信元毎に指定したコピー部数だけコピーして出力することを特徴としたファクシミリ装置の自動コピー方式。

3. 発明の詳細な説明

(目次)

概要

産業上の利用分野

従来の技術

発明が解決しようとする課題

課題を解決するための手段(第1図)

作用(第1図)

実施例(第2図～第5図)

発明の効果

(概要)

ファクシミリ装置の自動コピー方式に関し、

受信側だけの指定により、常に必要な部数のコ

送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部数の指定データを格納する送信元／部数記憶部(8)と、

出力する受信電文の送信元データを、前記指定データと比較し、一致した場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出す送信元比較部(9)と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部(7)と、

電文蓄積部(7)の受信電文出力時に、コピー部数を計数する部数カウンタ(5)と、

コピーを有効とする時間帯の指定データ、及びコピー部数の指定データを格納する時間帯／部数記憶部(2)と、

現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かを判定する時刻判定部(3)とを設け、

指定した時間帯には、時間帯／部数記憶部(2)内の指定データを部数カウンタ(5)に設定し、

出力する電文の送信元が指定された送信元の場合には、送信元／部数記憶部(8)内の該当するコピー部数の指定データを、部数カウンタ(5)に設定す

ビーが自動的にとれるようにすることを目的とし、

ファクシミリ装置に、時間帯／部数記憶部と、時刻判定部と、電文蓄積部と、部数カウンタとを設け、指定した時間帯には、コピー部数の指定データを部数カウンタに設定することにより、指定した時間帯の受信電文を、指定した部数だけコピーするように構成する。

また、送信元／部数記憶部と、送信元比較部と、電文蓄積部と、部数カウンタとを設け、出力電文の送信元が指定してあった場合には、部数カウンタに、指定部数を設定し、指定した部数のコピーをとるように構成する。

(産業上の利用分野)

本発明はファクシミリ装置の自動コピー方式に関し、更に詳しくいえば、受信側ファクシミリ装置において、指定した時間帯、あるいは指定した送信元の受信電文のコピーを、指定した部数だけ、自動的に印刷できるようにしたファクシミリ装置の自動コピー方式に関する。

ファクシミリ通信を行う際、特定の時間帯に受信した電文、あるいは特定の送信元から受信した電文は、常に複数枚のコピーを必要とする場合がある。

例えば、特定時間帯に受信する電文は主に海外からの複数の特定者宛の電文であるとか、特定送信元からの電文は、常に関係者へのコピー配布が慣例化しているとかのケースがある。

本発明は、このような場合に、受信側のファクシミリ装置において、必要な部数のコピーが自動的にとれるようにしたものである。

〔従来の技術〕

従来、ファクシミリ通信において、受信側のファクシミリ装置では、電文を受信した際、受信電文を紙に印刷して出力していた。

ところが、通常の場合、印刷部数は1部であるため、複数の人に配布する場合等においては、複写機を用いて、必要な部数のコピーをとっていた。また、ファクシミリ装置で複数枚のコピーをとる

でないと使用できない。

また、送信の都度、宛先ごとに部数指定をしなければならず、操作が面倒である。

(3) 前記専用プロトコルによる方法では、送信側で指定した部数が、必ずしも受信側で必要な部数とは限らない。

従って、コピー枚数の不足や、コピーのしすぎがある。

本発明は、このような従来の欠点を解消し、受信側だけの指定により、常に必要な部数のコピーが自動的にとれるようにすることを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

第1図Aは、本発明の原理ブロック図(1)、第1図Bは、本発明の原理ブロック図(2)、第1図Cは、本発明の原理ブロック図(3)、第1図Dは、本発明の原理ブロック図(4)である。

図中、1は時計部、2は時間帯／部数記憶部、3は時刻判定部、4はカウンタ制御部、5は部数カウンタ、6は電文印刷部、7は電文蓄積部を示す。

方法も知られていた。この方法は、専用プロトコル(伝送制御手順)を駆使して、送信側の指示により、受信側で複数枚のコピーをとる方法である。この方法で複数枚のコピーをとるには、送信側でコピー部数を指定する。

これにより、送信側において、受信先ごとにコピー枚数を任意に指定して送信すれば、受信側において、指定された枚数のコピーがとれるものである。

〔発明が解決しようとする課題〕

上記のような従来のものにおいては次のような欠点があった。

- (1) 受信電文のコピーを複数枚必要とする場合、複写機を用いてコピーをとる方法では、人手による作業であって、その作業も煩わしく、業務の効率が悪い。
- (2) 専用プロトコルを駆使して複数枚のコピーをとる方法では、送信側及び受信側共に、同一メーカーの装置で、しかもG3又はG4機(特定の機種)

本発明は、上記の目的を達成するため、次のように構成したものである。

- (1) ファクシミリ装置に、コピーを有効とする時間帯の指定データ、及びコピー部数の指定データを格納する時間帯／部数記憶部2と、現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かの判定をする時刻判定部3と、受信電文を蓄積する電文蓄積部7と、電文蓄積部7の受信電文を出力する際、コピー部数を計数する部数カウンタ5とを設け、指定した時間帯には、コピー部数の指定データと、部数カウンタ5に設定することにより、指定した時間帯の受信電文を、指定した部数だけコピーして出力するようにした。
- (2) ファクシミリ装置に、送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部数の指定データを格納する送信元／部数記憶部8と、出力する電文の送信元データを、前記指定データと比較し、一致した場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出す送信元比

較部9と、受信電文を蓄積する電文蓄積部7と、電文蓄積部7の受信電文出力時に、コピー部数を計数する部数カウンタ5とを設け、

電文蓄積部7の受信電文を出力する際、その送信元が指定送信元であった場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを、部数カウンタ5に設定することにより、指定した部数だけコピーして出力するようにした。

(3) ファクシミリ装置に、送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部数の指定データを格納する送信元／部数記憶部8と、

出力する受信電文の送信元データを、前記指定データと比較し、一致した場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出す送信元比較部9と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部7と、電文蓄積部7の受信電文出力時に、コピー部数を計数する部数カウンタ5と、コピーを有効とする時間帯の指定データを格納する時間帯記憶部10と、現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かを判定する時

刻判定部3とを設け、

指定した時間帯には、時間帯／部数記憶部2内の指定データを部数カウンタ5に設定し、出力する電文の送信元が指定された送信元の場合には、送信元／部数記憶部8内の該当するコピー部数の指定データを、部数カウンタ5に設定することにより、

時間帯によって指定したコピー部数、あるいは送信元毎に指定したコピー部数だけコピーして出力するようにした。

(作用)

本発明は上記のように構成したので、次のような作用がある。

イ、上記構成(1)による作用…(第1図A参照)

時間帯／部数記憶部2には、予め、コピーを有効とする時間帯の指定データと、コピー部数の指定データとを格納しておく。

時刻判定部3では、前記の時間帯の指定データと、時計部1からの現在時刻とを入力し、現在時刻が指定された時間帯か否かの判定を行う。

刻判定部3とを設け、

指定した時間帯の受信電文を出力する際、出力する電文の送信元が、指定された送信元であった場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを、部数カウンタ5に設定することにより、指定した部数だけコピーして出力するようにした。

(4) ファクシミリ装置に、送信元の指定データ及び、送信元毎のコピー部数の指定データを格納する送信元／部数記憶部8と、

出力する受信電文の送信元データを、前記指定データと比較し、一致した場合には、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出す送信元比較部9と、

受信電文を蓄積する電文蓄積部7と、電文蓄積部7の受信電文出力時に、コピー部数を計数する部数カウンタ5と、

コピーを有効とする時間帯の指定データ、及びコピー部数の指定データを格納する時間帯／部数記憶部2と、現在時刻が、前記指定時間帯であるか否かを判定する時刻判定部3とを設け、

指定時間帯であれば、カウンタ制御部4により、上記コピー部数の指定データを部数カウンタ5に設定する。また、指定時間以外の場合は、カウンタ制御部4により、部数カウンタ5にデフォルト値「1」を設定する。

受信した電文は、一度電文蓄積部7に蓄積された後、電文印刷部6で印刷されるが、この時、電文印刷部6では、部数カウンタ5の設定部数だけ印刷して出力する。

従って、上記指定時間帯に受信した電文は、指定部数だけコピーして出力し、その他の時間帯の受信電文は、1部のみ印刷して出力する。

ロ、上記構成(2)による作用…(第1図B参照)

送信元／部数記憶部8には、予め複数のコピーを必要とする送信元の指定データと、そのコピー部数の指定データとを格納しておく。

送信元比較部9では、出力電文の送信元データを入力し、上記の指定送信元データと比較する。その結果、同一送信元があれば、その送信元に対応したコピー部数の指定データを取り出してカウン

タ制御部4に送る。

カウンタ制御部4では、出力する電文の送信元が指定された送信元であった場合には、該当するコピー部数の指定データを部数カウンタ5に設定し、それ以外の場合は、部数カウンタ5にデフォルト値として「1」を設定する。

従って、電文蓄積部7の電文を、電文印刷部6で印刷する際、指定送信元の電文であれば、指定された部数のコピーを行い、それ以外の時は、1部のみ印刷して出力する。

ハ、上記構成(3)による作用…(第1図C参照)

この場合は、上記(2)の構成に、時計部1、時間帯記憶部10、時刻判定部3を付加したものであり、時間帯記憶部10には、予めコピーを有効とする時間帯の指定データを格納しておく。

時刻判定部3では、時計部1からの現在時刻と、時間帯記憶部10の指定データを入力して判定を行い、その判定結果をカウンタ制御部4に送る。また、送信元比較部9では、出力する電文の送信元と指定データとの比較を行ってその比較結果を

したコピー部数の指定データを部数カウンタ5に設定する。また前記以外の場合は、デフォルト値として「1」を部数カウンタ5に設定する。

従って、指定された送信元の電文は、該送信元に対応した部数のコピーを行い、指定された時間帯には、該時間帯に対応して指定された部数のコピーを行うと共に、それ以外の場合には、1部のみ印刷して出力する。

〔実施例〕

以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

第2図は、本発明の第1実施例のブロック図、第3図は、第2実施例のブロック図、第4図は、第3実施例のブロック図、第5図は、第4実施例のブロック図である。

図中、第1図と同符号は同一のものを示す。また、11は操作部、12は時間帯記憶部、13は部数記憶部、14はファイル管理部、15はプロトコル制御部、16は送信元アドレス記憶部、17は

カウンタ制御部4に送る。

そして、カウンタ制御部4による制御で、指定された時間帯に受信した電文の内、送信元が指定されていた場合にのみ、その送信元に対応したコピー部数の指定データを、部数カウンタ5に設定し、それ以外はデフォルト値として「1」を設定する。従って、電文蓄積部7の電文を、電文印刷部6で印刷する際、部数カウンタ5の設定部数だけコピーを行って出力するから、指定された時間帯の受信電文の内、指定された送信元の電文を、指定した部数だけコピーして出力することが可能となる。

ニ、上記構成(4)による作用…(第1図D参照)

この場合は、上記(1)の構成と(2)の構成を備えたものであり、送信元比較部9の比較結果と、時刻判定部3の判定結果をカウンタ制御部4へ送る。カウンタ制御部4では、出力する電文の送信元が、送信元/部数記憶部8の指定データと一致した場合には、その送信先に対応したコピー部数の指定データを部数カウンタ5へ設定し、時間帯/部数記憶部2の指定時間帯であれば、該時間帯に対応

送信元記憶部、18は部数記憶部を示す。

(第1実施例の説明)…第2図参照

時間帯記憶部12は、操作部11の操作により、コピーを有効とする時間帯の指定データを格納しておくものであり、部数記憶部13は、操作部11により、必要とするコピー部数の指定データを格納しておくものである。

時刻判定部3は、時計部1からの現在時刻を入力すると共に、時間帯記憶部12の指定データを入力して判定を行い、その結果をカウンタ制御部4に送るものである。

カウンタ制御部4は、時刻判定部3の判定結果を入力し、指定された時間帯になると、部数記憶部13の指定データを部数カウンタ5に設定し、それ以外の時間帯には、デフォルト値として「1」を部数カウンタ5に設定するものである。

電文蓄積部7は、受信電文を一旦蓄積しておくものであり、電文印刷部6は、電文蓄積部7内の電文を印刷して出力するものである。

部数カウンタ5は、電文印刷部6で印刷する際の

印刷部数(コピー部数)をカウントするものであり、電文印刷部6は、この部数カウンタ5に設定した部数だけ印刷して出力するものである。

次に、自動コピー処理について説明する。時刻判定部3による時刻判定処理の結果が、指定時間帯でなかった場合には、この判定結果を受けたカウンタ制御部4により、部数カウンタ5にはデフォルト値「1」を設定する。

この場合、受信電文は、一旦電文蓄積部7に蓄えられた後、電文印刷部6で印刷され出力する。この時の印刷部数は、部数カウンタの設定値である1部である。

その後、指定時間帯になると、カウンタ制御部4では、部数記憶部13から指定データを取り出して部数カウンタ5に設定する。このようにすれば、指定された時間帯で受信した電文は、部数カウンタ5に設定した部数だけコピーをして出力される。すなわち、指定した時間帯に受信した電文を、指定した部数だけコピーして出力することができる。なお、この例では、送信側の機種は他社のもので

る例である。

電文蓄積部7の受信電文を出力する際は、ファイル管理部14から電文蓄積部7へ制御情報を送ると共に、出力する電文の送信元アドレスを送信元アドレス記憶部16へ送る。

これにより、送信元アドレス記憶部16の出力からは、ファイル管理部14から送られてきた送信元アドレスと同じ送信元アドレスを取り出して出力する。また、送信元比較部9からは、送信元記憶部17と、部数記憶部18に対して指定データの読出しパルスを出す。

この時、送信元記憶部17の出力からは、送信元比較部9からの前記読出しパルス(1つのアドレスを比較する度に1パルスを出力)毎に、送信元記憶部17に格納されている送信元アドレスが逐次読み出される。

同様に、部数記憶部18の出力には、上記の読出しパルスの発生毎に、出力した送信元アドレスに対応したコピー部数の指定データが逐次読み出される。このようにして出力された送信元アドレス

もよく、また、どのような機種でもよい。

(第2実施例の説明)…第3図参照

送信元記憶部17は、操作部11により、複数のコピーを必要とする送信元の指定データ(送信元アドレス)を格納しておくものであり、部数記憶部18は、前記の指定送信元とそれに対応したコピー部数の指定データ(送信元毎に部数を指定可能)を格納しておくものである。

送信元アドレス記憶部16は、プロトコル制御部15により識別された送信元アドレスを、電文ファイル単位に記憶するものであり、送信元比較部9は、これから出力しようとする電文の送信元が、送信元記憶部17に存在するか否かをチェックするものである。

ファイル管理部14は、電文蓄積部7及び送信元アドレス記憶部16を制御するものである。

以下、第2実施例の自動コピー処理について説明する。

この例は、指定した送信元からの受信電文を、送信元別に指定した部数だけコピーを行って出力す

(指定データ)と、送信元アドレス記憶部16から出力される送信元アドレスとを、送信元比較部9において比較し、比較結果をカウンタ制御部4に送る。

カウンタ制御部4では、前記の比較結果が「一致」であれば(出力する電文の送信元が、指定されていた場合)、その時部数記憶部18から出力されたコピー部数の指定データを、部数カウンタ5に設定する。しかし、比較結果が「不一致」であれば(出力する電文の送信元が指定されていない場合)、カウンタ制御部4では、デフォルト値として「1」を部数カウンタ5に設定する。

その後、電文蓄積部7から取り出された電文は、部数カウンタ5に設定されている部数だけ、電文印刷部6で印刷(コピー)する。なおこの例では、送信側に原則として同一メーカーのQ3又はQ4ファクシミリ装置を使う必要がある。

(第3実施例の説明)…第4図参照

この例は、第3図に示した第2実施例に、時間帯の指定ができるようにし、指定した時間帯に限

り、指定した送信元についての複数枚のコピーができるようにしたものである。

このため、第2実施例の構成に、時計部1、時間帯記憶部12、及び時刻判定部3（これらは第2図と同じ）を付加した構成となっている。

以下、第3実施例における自動コピー処理について説明する。出力する電文の送信元が指定送信元であった場合には、第2実施例と同様にして、指定した部数だけコピーを行うが、このコピーは、時間帯記憶部12内の指定時間帯にのみ有効である。

この処理を行うため、時刻判定部3からは、現在時刻が指定時間帯か否かの判定を行い、その結果をカウンタ制御部4に送る。

カウンタ制御部4では、指定時間帯であって、かつ出力する電文の送信元が指定されている場合にのみ、該当するコピー部数を部数カウンタ5に設定し、それ以外の場合は、デフォルト値である「1」を設定する。

これにより、指定時間帯に、指定した送信元から

帯であった場合には、部数記憶部13に格納してあるコピー部数の指定データを取り出して、部数カウンタ5に設定する。更に、上記以外の場合には、デフォルト値として「1」を部数カウンタ5に設定する。

このようにして、出力する電文の送信元が指定されている場合には、送信元毎に指定した部数のコピーを行い、それ以外の場合で、指定された時間帯であれば、該時間帯に対応して指定した部数のコピーを行い、更に、それ以外の場合は、1部のみ印刷して出力する。

〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明によれば次のような効果がある。

(1) 受信電文（原稿）のコピーが必要な場合、ファクシミリ装置で自動的に指定した部数だけのコピーがとれる。

従って、従来のように、入手により複写機を使用してコピーをとる必要がなく、手間が省ける。

の受信電文があった場合に指定した部数のコピーを行って出力することができる。

（第4実施例の説明）…第5図参照

この例は、第1実施例と第2実施例とを組合せた例であり、指定時間帯に電文を受信した場合、あるいは、指定した送信元からの電文を受信した場合に指定した部数のコピーができるようにしたものである。

以下、第4実施例における自動コピー処理について説明する。

カウンタ制御部4では、送信元比較部9の出力と時刻判定部3の出力を入力しており、これらの入力情報に基づいて部数カウンタ5への部数データの設定を行う。

先ず、送信元比較部9の出力により、出力する電文の送信元が、指定されていた場合には、部数記憶部18に格納されているコピー部数の指定データ（送信元に対応したデータ）を部数カウンタ5に設定する。

また、前記の送信元が指定されてなく、指定時間

(2) 上記請求項(1)に記載した発明においては、送信側のファクシミリ装置は、他社製の装置でもよく、機種を限定しない。

(3) コピー部数の指定や、送信元の指定は、装置導入時、または指定データの変更時に受信側で入力するだけでよい。

従って、指定するための手間がかからない。

(4) コピー部数は、受信側で任意に指定できるので、コピー部数に過不足が生じない。

(5) 請求項2～4に記載した発明については、送信側に、受信側と、原則として同一メーカー製のG3またはG4の装置を設ける必要があるけれども、その機種はどのようなものでもよい。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の原理図であり、

第1図Aは、原理ブロック図(1)、

第1図Bは、原理ブロック図(2)、

第1図Cは、原理ブロック図(3)、

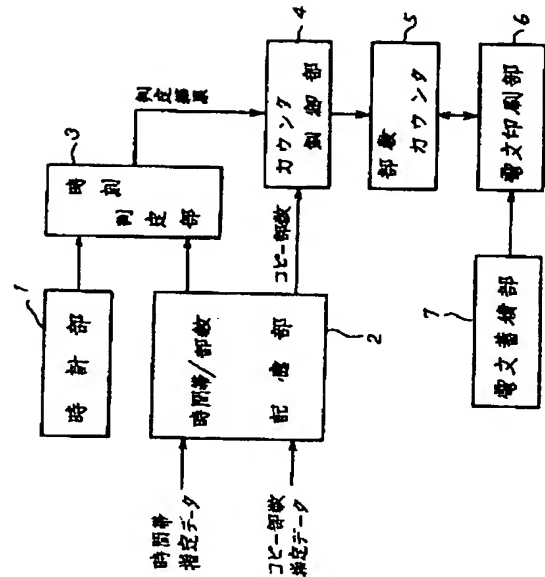
第1図Dは、原理ブロック図(4)を示す。

また、第 2 図乃至第 5 図は、本発明の実施例を示した図であり、

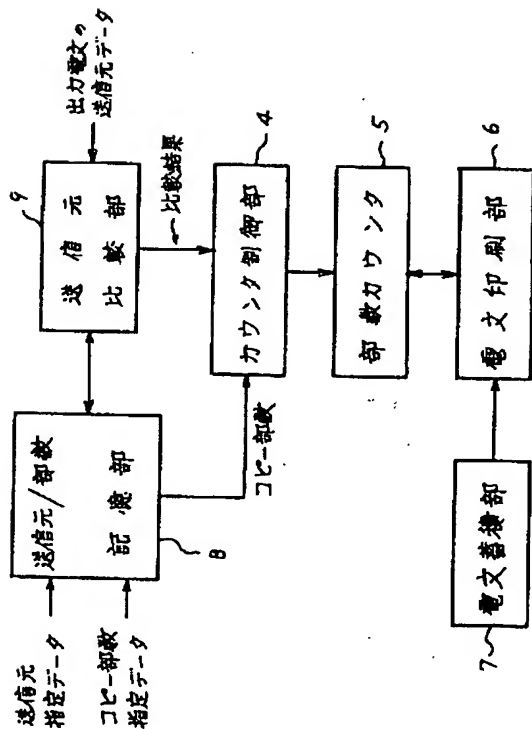
第 2 図は、第 1 実施例のブロック図、
第 3 図は、第 2 実施例のブロック図、
第 4 図は、第 3 実施例のブロック図、
第 5 図は、第 4 実施例のブロック図である。

- 1 … 時計部、
- 2 … 時間帯／部数記憶部、
- 3 … 時刻判定部、
- 4 … カウンタ制御部、
- 5 … 部数カウンタ、
- 6 … 電文印刷部、
- 7 … 電文蓄積部、
- 8 … 送信元／部数記憶部、
- 9 … 送信元比較部、
- 10 … 時間帯記憶部。

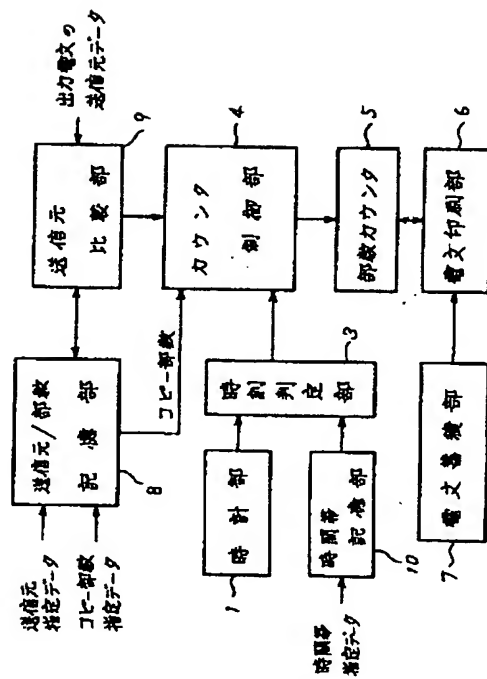
特許出願人 富士通株式会社
復代理人 弁理士 今村 辰夫



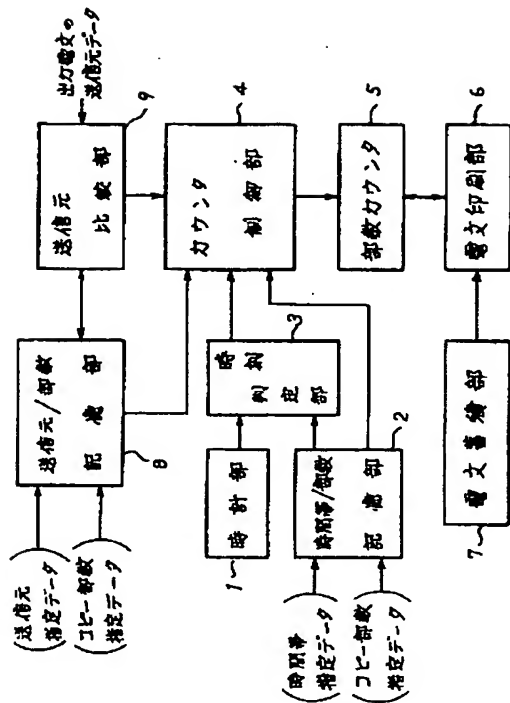
本発明の原理ブロック図 (1)
第 1 図 A



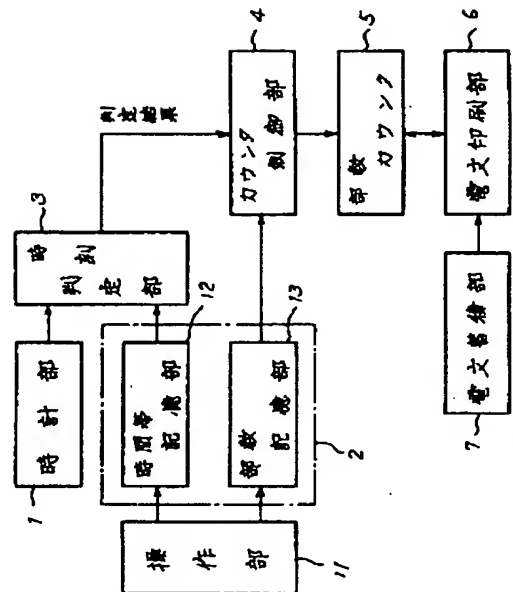
本発明の原理図 (2)
第 1 図 B



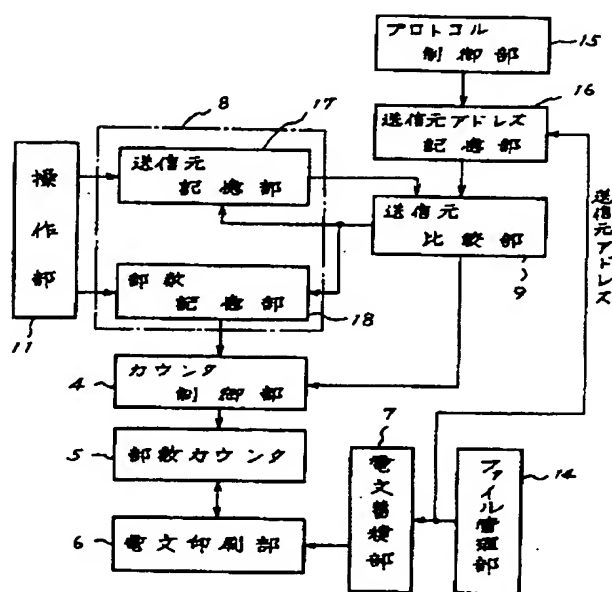
本発明の原理図 (3)
第 1 図 C



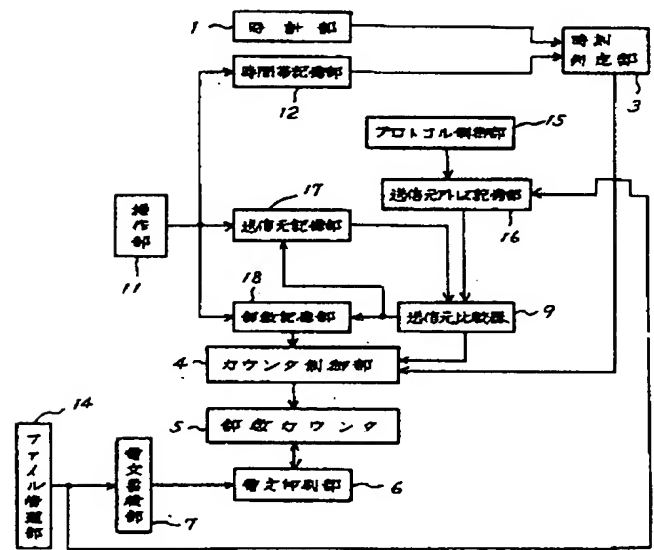
本発明の原理図(4)
第1図D



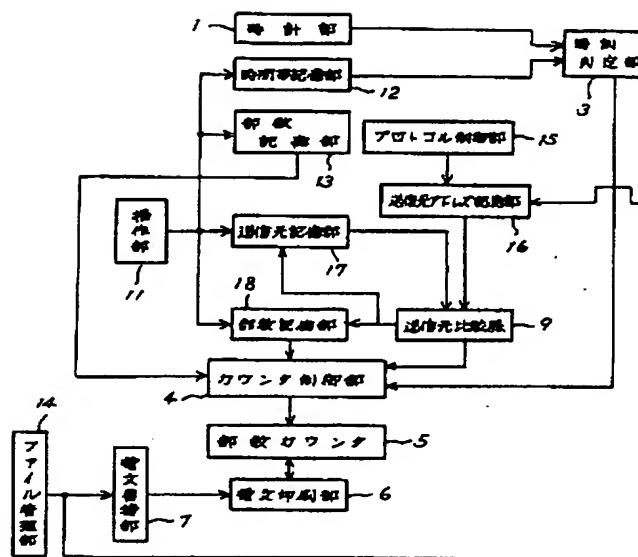
第1実施例のブロック図
第2図



第2実施例のブロック図
第3図



第3実施例のブロック図
第4図



第4実施例のブロック図

第5図

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成11年(1999)12月10日

【公開番号】特開平4-199964
 【公開日】平成4年(1992)7月21日
 【年通号数】公開特許公報4-2000
 【出願番号】特願平2-331522
 【国際特許分類第6版】

H04N 1/00
 【F I】
 H04N 1/00 H

手続補正書

平成 9 年 / / 月 / 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成 2 年 特 許 第 331522 号

2. 補正をする者

事件との関係	特許出願人
住 所	東京都品川区下月島2丁目3番8号
名 称	松下電通株式会社

3. 代 理 人

〒208
住 所
東京都品川区勝牧1丁目24番地1
新都市センタービル5階
新田国寿特許事務所
氏 名
(1044) 弁護士 豊田 公一
(電話 0423-38-4500)

4. 補正により増訂する請求項の表

0

5. 補正の概要

明細書の特許請求の範囲の欄
 明細書の発明の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

(1) 明細書の特許請求の範囲の欄を添付の通りに補正致します。

(2) 明細書の第5頁第18行目から第6頁第12行目までの「(電報)・・・」を削除致します。

(3) 明細書の第9頁第13行目から第13頁第6行目の「(問題を解決するための手段)・・・」を以下の通りに補正致します。

「(問題を解決するための手段)

上記の目的を達成するため、本発明は、発信電文を複製する電文複製手段と、この電文複製手段に複製された発信電文を記録紙に出力する電文出力手段と、指定されたコピー部数を記憶する部数記憶手段と、前記電文複製手段に複製された発信電文を前記電文出力手段より前記部数記憶手段に記憶された部数出力させる制御手段とを具備する構成を得る。」

(4) 明細書の第9頁第11行目から第17頁第6行目の「(作用)・・・」を以下の通りに補正致します。

「(作用)

本発明は、上記のように構成したので、次のような作用がある。

発信電文(原稿)のコピーが必要である場合、ファクシミリ装置で自動的に指定した部数だけのコピーを取ることができる。従って、従来のように、人手により複写機を使用してコピーをとる必要がなく、手間を省くことができる。」

2. 特許請求の範囲

原電文を復元する電文復元手段と、この電文復元手段に復元された原電文を記録紙に出力する電文出力手段と、書き入れたコピー原電文を記録する記録紙を手段と、前記電文復元手段に復元された原電文を記録紙に出力手段より前記記録紙に書き入れた原電文出力手段とを具備するファクシミリ装置。

手続補正書

平成10年4月1日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成2年特許願 第531522号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住 所 東京都豊島区下豊島2丁目3番5号
名 称 松下電器株式会社

3. 代 理 人

〒206-0034
住 所 東京都豊島区池田1丁目24番地1
新都市センタービル5階
富田法律事務所
氏 名 井上 公一
(電話 0423-38-4600)

4. 補正対象書類名

平成9年11月10日提出の手続補正書

5. 補正対象項目名

補正の内容

6. 補正の内容

「6. 補正の内容」の欄における補正の内容(4)を以下の通りに補正致します。

「(4) 明細書の第13頁第11行目から第17頁第8行目の「〔作用〕...印刷して出力する。」を以下の通りに補正致します。

「〔作用〕

本発明は、上記のように構成したので、次のような作用がある。
受信電文（原稿）のコピーが必要である場合、ファクシミリ装置で自動的に指定した部数だけのコピーを取ることができる。従って、従来のように、人手により複写機を使用してコピーをとる必要がなく、手間を省くことができる。」